ゾーニング検討シミュレーションの比較整理 【① 2施設パターン】

箇所数の考え方		2施設				2施設+1施設延命					
パターン		パターン1		パターン2		パターン3 ※将来パターン1へ移行			パターン4 ※将来パターン2へ移行		
対象予定地及び提供食数		東部	西部	東部	西部	東部	中部	西部	東部	中部	西部
		香椎 P.P. 17,000 食	西部市場 23,000 食	空港周辺 17,000 食	西部市場 23,000 食	香椎 P.P. 14,000 食	箱崎(改修延命) 3,000 食	西部市場 23,000 食	空港周辺 13,000 食	箱崎(改修延命) 3,000 食	西部市場 24,000 食
食数計	H21実績	16,277 食	21,794 食	15,997 食	22,074 食	13,092 食	2,791 食	22,188 食	12,462 食	2,710 食	22,899 食
	H27予測	16,878 食	22,305 食	16,349 食	22,834 食	13,469 食	2,863 食	22,851 食	12,979 食	2,663 食	23,541 食
敷地面積(m ²)		15,000～	23,987	13,191	23,987	15,000～	5,300	23,987	13,191	5,300	23,987
食数による敷地制約		○	△	×	△	○	○	△	○	○	×
対象校数		33 校	37 校	32 校	38 校	28 校	5 校	37 校	26 校	4 校	40 校
配送エリアのバランス(重複、飛地等)		・南東部への配送が困難 ・西部の食数負担が多い		・北部及び南東部への配送が困難 ・東部の食数設定は現実的困難		・「香椎 P.P.」「箱崎」が近接しており、配送エリアが重複 ・「箱崎」は、飛地的なエリア設定で非効率 ・南東部への配送が困難 ・西部の食数負担が多い			・「空港周辺」「箱崎」が近接しており配送エリアが重複 ・「箱崎」は、飛地的なエリア設定で非効率 ・東北部への配送がやや困難 ・西部の食数設定は現実的困難		
配送時間	志賀	23.0 分	—	50.0 分	—	23.0 分	—	—	—	40.0 分	—
	和白	21.1 分	—	58.2 分	—	21.1 分	—	—	—	42.0 分	—
	和白丘	27.1 分	—	56.2 分	—	27.1 分	—	—	—	39.9 分	—
	30～40 分	4 校	7 校	6 校	11 校	6 校	4 校	9 校	4 校	1 校	8 校
		11 校		17 校		19 校			13 校		
	40～50 分	板付(42.0) 住吉(42.2) 三筑(43.6) 春吉(44.8) 宮竹(47.1) 高宮(42.6) 野間(48.9)	若久特(40.5) 屋形原特(42.4) 老司(45.6)	香椎第三(41.6) 香椎第二(42.0)	筑紫丘(41.3)	板付(42.0) 三筑(43.6) 宮竹(47.1)	野間(40.2) 若久特(40.5) 春吉(40.5) 筑紫丘(41.3) 屋形原特(42.4)	香椎第三(41.6) 香椎第二(42.0)	志賀(40.0) 和白(42.0)	野間(40.2) 若久特(40.5) 筑紫丘(41.3) 屋形原特(42.4) 老司(45.6)	
	30～50 分学校数計	21 校		20 校		27 校			22 校		
	50 分以上	筑紫丘(50.4) 三宅(51.6) 横手(54.6)	日佐(52 分)	和白丘(56.2) 和白(58.2) 志賀(50.0)							
	最大	54.6 分 (横手中)	52 分 (日佐中)	58.2 分 (和白中)	41.3 分 (筑紫丘)	47.1 分 (宮竹中)	38.7 分 (老司)	42.4 分 (屋形特)	42.0 分 (香椎二)	42.0 分 (和白中)	45.6 分 (老司中)
	平均※1	30.0 分	24.1 分	23.2 分	20.7 分	27.7 分	28.5 分	23.2 分	24.2 分	31.0 分	23.1 分
備考	50 分以上の学校有り(4 校) 30～50 分の学校(21 校)が多く、40 分台の学校(10 校)が最も多い		50 分以上の学校有り(3 校) 30～50 分の学校が多い(20 校)		30～50 分の学校(27 校)が最も多く、40 分台の学校(8 校)も多い また、30 分台の学校も多い(19 校)			30～50 分の学校(22 校)が多く、40 分台の学校(9 校)も多い また、30 分台の学校がやや多い(13 校)			
配送遅延リスク	最も遅延リスクが高い		X		30 分を超える学校が多く、遅延リスクが高い 箱崎撤去時は、パターン1になり、配送遅延リスクが高まる。						
事故発生リスク(食中毒等)	3施設案に比べ、事故発生リスクが高い。				対象校が分散されるため、パターン1、2に比べ事故発生リスクは低い 箱崎撤去時は2箇所運営になる						
機能停止リスク	3施設案に比べ、機能停止リスクが高い。				箱崎については、改修案であり、老朽化に伴う機能停止リスクが懸念される。 箱崎撤去時は2箇所運営になる						
計画の妥当性	いずれも新規整備であり、既存施設の建替・改修が発生しないため、ローリングによる制約はない。				箱崎の配送エリアについて、改修整備後は従前の配送エリアから変更する必要がある。						

※1：経由地無しの場合の単純平均配送時

【② 3施設パターン（那の津活用）】

箇所数の考え方		3施設						3施設(特別支援学校集約)								
パターン		パターン5			パターン6			パターン7			パターン8					
対象予定地及び提供食数		東部	中部	西部	東部	中部	西部	東部	中部	西部	東部	中部	西部			
		香椎 P.P. 11,000食	那の津 7,000食	西部市場 22,000食	空港周辺 12,000食	那の津 7,000食	西部市場 21,000食	香椎 P.P. 11,000食	那の津 7,000食	西部市場 22,000食	空港周辺 13,000食	那の津 7,000食	西部市場 20,000食			
食数計	H21実績	10,298食	6,568食	21,205食	11,401食	6,419食	20,251食	10,532食	6,413食	21,126食	12,492食	6,786食	18,793食			
	H27予測	10,685食	6,773食	21,725食	11,767食	6,657食	20,759食	10,885食	6,635食	21,663食	12,810食	6,964食	19,409食			
敷地面積(m ²)		15,000~	6,617	23,987	13,191	6,617	23,987	15,000~	6,617	23,987	13,191	6,617	23,987			
食数による敷地制約		○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○			
対象校数		20校	15校	35校	22校	15校	33校	20校	16校	34校	24校	16校	30校			
配送エリアのバランス(重複、飛地等)		・「那の津」が飛び地的に南東部への配送を受け持ち、やや効率が悪い ・西部の食数負担がやや多い			・「空港周辺」から東北部への配送が困難			・「那の津」が飛び地的に南東部への配送を受け持ち、やや効率が悪い ・西部の食数負担がやや多い			・「空港周辺」から北部への配送が困難 ・各センターの規模バランスが取れている					
配送時間	志賀	23.0分	—	—	50.0分	—	—	23.0分	—	—	50.0分	—	—			
	和白	21.1分	—	—	—	45.0分	—	21.1分	—	—	—	45.0分	—			
	和白丘	27.1分	—	—	—	51.0分	—	27.1分	—	—	—	51.0分	—			
	30~40分	4校	4校	8校	4校	3校	7校	4校	5校	8校	3校	3校	6校			
		16校			14校			17校			12校					
	40~50分			屋形原特(42.4)	香椎第三(41.6) 香椎第二(42.0)	和白(45.0)			板付(42.0)	生の松原特(44.0)	野間中(40.2)	香椎第三(41.6) 香椎第二(42.0)	生の松原特(44.0) 和白(45.0)			
	30~50分 学校数計	17校			17校			20校			16校					
	50分以上				志賀(50.0)	和白丘(51.0)							志賀(50.0)	和白丘(51.0)		
	最大	36.3分 (東住吉)	35.2分 (板付,老司中)	42.4分 (屋形特)	50.0分 (志賀中)	51.0分 (和白丘中)	39.8分 (柏原中)	42.0分 (板付中)	44.0分 (生の松原)	40.2分 (野間中)	50.0分 (志賀中)	51.0分 (和白丘中)	39.8分 (柏原中)			
	平均※1	24.4分	23.3分	20.9分	28.2分	21.9分	19.7分	25.3分	25.1分	21.6分	27.5分	22.4分	19.6分			
	22.4分			22.8分			23.5分			23.0分						
備考	40分を超える学校が1校と少ない 30分台の学校が多い(16校)			50分以上の学校有り(2校)			40分台を超える学校が3校と比較的少ないが、 30分台の学校が多い(17校)			50分以上の学校有り(2校)						
配送遅延リスク	40分台の学校は少ないが、全体的に30分台の学校が多く、遅延リスクがやや高い			主に東部の遅延リスクが高い。			40分台の学校は少ないが、全体的に30分台の学校が多く、遅延リスクがやや高い			主に東部の遅延リスクが高い。						
事故発生リスク(食中毒等)	対象校が分散されるため、2施設案に比べ事故発生リスクは低い															
機能停止リスク	対象校が分散されるため、2施設案に比べ機能停止リスクは低い															
計画の妥当性	箱崎の配送エリアについて、移行期間中は従前の配送エリアから変更する必要がある。						箱崎の配送エリアについて、移行期間中は従前の配送エリアから変更する必要がある。									

※1：経由地無しの場合の単純平均配送時

【③ 3施設パターン（新規案）】

箇所数の考え方		3施設(新規案)													
パターン		パターン9			パターン10			パターン11			パターン12				
対象予定地及び提供食数		東部	中部	西部	東部	中部	西部	東部	中部	西部	東部	中部	西部		
		香椎 P.P. 9,000 食	空港周辺 10,000 食	西部市場 21,000 食	香椎 P.P. 14,000 食	南福岡(民) 5,000 食	西部市場 21,000 食	香椎 P.P. 13,000 食	箱崎建替 4,000 食	西部市場 23,000 食	空港周辺 13,000 食	箱崎建替 4,000 食	西部市場 23,000 食		
食数計	H21 実績	8,701 食	9,380 食	19,990 食	13,111 食	4,827 食	20,133 食	12,054 食	3,829 食	11,643 食	11,643 食	3,817 食	22,611 食		
	H27 予測	8,895 食	9,648 食	20,640 食	13,697 食	4,839 食	20,647 食	12,420 食	3,912 食	12,287 食	12,287 食	3,665 食	20,897 食		
敷地面積(㎡)		15,000～	13,191	23,987	15,000～	7,500	23,987	15,000～	5,300	23,987	13,191	5,300	23,987		
食数による敷地制約		○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△		
対象校数		17 校	20 校	33 校	27 校	9 校	34 校	26 校	7 校	37 校	25 校	6 校	39 校		
配送エリアのバランス(重複、飛地等)		・各センターの配送エリアバランスが取れている			・センターの立地バランスは良いものの、中部の設定可能食数が少ないため、結果的に、南東部での配送がやや困難になっている			・「香椎 P.P.」「箱崎」が近接しており、配送エリアが重複 ・「箱崎」は、飛地的なエリア設定で非効率 ・南東部への配送が困難 ・西部の食数負担が多い			・「空港周辺」「箱崎」が近接しており配送エリアが重複 ・「箱崎」は、飛地的なエリア設定で非効率 ・東北部への配送がやや困難 ・西部の食数負担が多い				
配送時間	志賀	23.0 分	—	—	23.0 分	—	—	23.0 分	—	—	—	40.0 分	—		
	和白	21.1 分	—	—	21.1 分	—	—	21.1 分	—	—	—	42.0 分	—		
	和白丘	27.1 分	—	—	27.1 分	—	—	27.1 分	—	—	—	39.9 分	—		
	30～40 分	0 校	3 校	6 校	5 校	0 校	6 校	6 校	5 校	9 校	3 校	1 校	7 校		
		9 校			11 校			20 校			11 校				
	40～50 分	/			住吉中(42.2) 高宮中(42.5)	/		若久特(40.5) 屋形原特(42.4) 老司中(45.6)	板付(42.0)	/		野間(40.2) 若久特(40.5) 春吉(40.5) 筑紫丘(41.3) 屋形原特(42.4)	香椎第三(41.6)	志賀(40.0) 和白(42.0)	野間(40.2) 若久特(40.5) 筑紫丘(41.3) 屋形原特(42.4) 老司(45.6)
	30～50 分 学校数計	9 校			16 校			26 校			19 校				
	50 分以上	/			/			/			/				
	最大	28.5 分 (吉塚中)	35.2 分 (屋形特別)	38.0 分 (花畑中)	42.5 分 (高宮中)	20.4 分 (野間中)	45.6 分 (老司中)	42.0 分 (板付中)	33.7 分 (三筑中)	42.4 分 (屋形特)	41.6 分 (香椎三)	42.0 分 (和白中)	45.6 分 (老司中)		
	平均※1	22.1 分	23.7 分	19.3 分	26.7 分	13.7 分	21.3 分	26.4 分	29.0 分	23.2 分	23.2 分	27.6 分	22.8 分		
21.3 分			22.4 分			25.0 分			23.3 分						
備考	40 分を超える学校はない 30 分を超える学校は 9 校と最も少ない			30 分台の学校(11 校)は比較的少ないものの、40 分台の学校が 5 校とやや多い			30～50 分の学校(26 校)が多く、40 分台の学校(6 校)も多い また、30 分台の学校も多い(20 校)			40 分台の学校(8 校)が多い					
配送遅延リスク	30 分を超える学校が最も少なく、また配送平均時間も最短 最も遅延リスクが低い			中部の食数が少ないため、中部配送エリアの境界周辺で 40 分を超える学校があり遅延リスクがやや高い			西部で40分を超える学校が多く、30 分台の学校も多いため遅延リスクが高い。			40分を超える学校が多く遅延リスクがやや高い。					
事故発生リスク(食中毒等)	対象校が分散されるため、2施設案に比べ事故発生リスクは低い														
機能停止リスク	対象校が分散されるため、2施設案に比べ機能停止リスクは低い														
計画の妥当性	3施設共新設のため、ローリングによる制約はない。						箱崎の配送エリアについて、移行期間中は従前の配送エリアから変更する必要がある。								

※1：経由地無しの場合の単純平均配送時